

さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～



NO. 7 令和5年2月22日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

進級、進学を意識し始める3学期。みんな大きくなりました。

友達と一緒に遊ぶために…(花組)



3学期に入って、「貸して」「入れて」「〇〇ごっこする人この指止まれ～」など自分たちから友達とやりとりをしている姿を見て、大きくなったと思う今日この頃です。

先日、こまちの列車をAくんが、はやぶさの列車をBくんが走らせていました。少しすると、BくんがAくんの列車を指さし「貸して。」と言いました。Aくんは、「ダメ。」と言い、困ったBくんは保育者に「僕は、貸してって言ったけど『ダメ』って言った。でも、僕も使いたい。」と言いに来ました。保育者が「2人とも、こまちが大好きだもんね。こまち1つしかないから困ったね。」と言うとBくんは、「そうだ、僕のははやぶさを貸して、こまちを貸してって言うよ。」とAくんに交渉しに行きました。Aくんは、「僕は、こまちがいいんだよ。」と思いを伝えます。保育者も「2人ともこまちがいいんだもんね～」と再び考えたように言うるとAくんが、「僕いいこと思いついた！（時計の）長い針が4になったら、交代するのは？」と言いました。Bくんは、「めっちゃいい考え！長い針が4までAくんが使って、その後は僕ね。」と言い、「最初に使わせてくれてありがとう。」とAくん。その後4になったことを保育者が伝えると、AくんとBくんは交代して遊びました。

「貸して」「ダメ」の後、どちらも使いたい気持ちは同じだったけど2人とも考え、待ったり交代したり約束を守ったりして、遊べたことが素敵だなと思いました。

またある日、CちゃんがDちゃんに「家族ごっこしたいなら『入れて』って言わないと入れないよ。」と言い、Dちゃんが「入れて」と言う、と、「いいよ！」と遊び出すCちゃんの姿がありました。次の日は、CちゃんはEちゃんのところに行き「家族ごっこしたいなら『入れて』って言わないと入れないよ。」と言いました。Eちゃんは、「それならしない。」と言い、少し戸惑うCちゃん。気を取り戻し保育者のところに「家族ごっこしたいなら入れてって言わないと入れないよ。」と来ました。きっと一緒に遊びたいことが伝えたいのだろうと思い、「先生は、一緒に遊ぼうって言われた方が嬉しいな」と言う、と、「入れてって言ったなら一緒に遊べるよ。」と言いつつも少し考えている様子のCちゃん。この日は保育者が、「先生は、Cちゃんと家族ごっこしたいから、入れて！」と言うと、笑顔にな

って「いいよ！」と遊び出しました。その2日後、CちゃんがEちゃんに「一緒に遊ぼう。」と誘って遊び出す姿がありました。

知っている言葉で思いを伝えようとすると、時には伝わらないこともあったり、思っていた返事と違う言葉で返ってきたり、できることが増えると気持ちが大きくなって使い方を間違ってしまったこともあります。その時に、一旦立ち止まって一緒に子どもたちとどうしたら良かったのかを考えていきたいなと思います。花組で過ごすのも残り1ヶ月、友達とたくさんかわりながら、楽しく過ごしていきたいと思います。(尾川)



半分、星組！（風組）

星組さんの給食体験初日。「なんで誰もいないの？」と、お弁当の時間なのに誰もいない星組の保育室に気づいたAくんたち。その日以降も、給食体験の日は年長児ならではの特別感があり、星組さんの様子が気になる風組の子どもたち。遊戯室に椅子を運ぶ星組さんの姿や小学校の栄養教諭の瓦屋先生が見えると、「今日も星組さん、遊戯室？」「そうよ。金曜日だもん。」「瓦屋先生って給食の先生だよ。」「知ってる。お姉ちゃんに聞いた。」と、星組さんの話題で持ちきりです。Bちゃんの「小学校の練習みたい。」と言う言葉をきっかけに、「そうだね。4月になったから一年生！じゃなくて今からちょっとずつ一年生になっていくんだね。風組さんもだよ。今からちょっとずつ星組になっていくんだよ。」と、クラスのみんなで話した日がありました。

ある日、「先生。Cくんがこけたよ。」と知らせてくれたDちゃんの指す方を見ると、転んだCくんをたくさんの風組の友達か囲んでいて、足についた土を払ったり「大丈夫？」と声をかけたりしていました。そのとき「まあ。風組さん、優しいね。星組みだいな。」と星組の先生に声をかけられ、照れながらも嬉しそうに星組の先生の言葉をかみしめる子どもたち。嬉しさで身長が1cm伸びたように見えました。

別の日には、鬼ごっこの途中で「バリア場に入ったらだめだよ。」「わざとじゃないじゃん。」「でもEくんいつもそうする。」「Fくんが怒って言うからさ。」と言い合いになったEくんとFくん。保育者が「どっちの気持ちも分かるな。次からどうしたらいいか話してみたら。」と声をかけると「バリア場の前は（勢いあまって入らないように）ゆっくりする。」「怒ってごめんね。」と仲直り。また別の日には、泣いているGちゃんを見つけたHくんが「先生は来なくていいよ。僕が行って解決してくるからね。」と言って駆けつけ、「どうしたの？」とGちゃんからも、Gちゃんと一緒にいた男の子たちからも話を聞いていました。日々のいろいろな場面で、友達の思いや気持ちを考えようとして自分たちで解決しようとしていたりする姿が見られ始めています。

こうした子どもたちの成長が嬉しくて、帰りの会で「こんなことがあって嬉しかったよ。みんな、星組さんかなって思うくらい大きくなったよね。」と、保育者が紹介をする日もあります。すると、「じゃあ、もう星組？」「星組さんに、コメちゃんのお世話が上手って言われたもん。」と子どもたち。「みんながもう星組になっちゃったら先生は寂しいから、半分くらいにして。半分くらい星組かな。」と保育者が答えると、「半分、星組！やったー！」「おめでとう。」と、顔を見合わせて盛り上がる、もうすっかり星組気分の風組です。(中原)

一つひとつステップアップして（星組）



12月頃から小学校の友達や先生とかかわる機会も増え、少しずつ小学校への期待も膨らんできた星組さん。3学期も忙しい毎日をご過ごす中で、小学生になることを意識した言動が増えてきました。

星組は1月末から週に1回、給食体験をしています。給食は楽しい反面、不安もあったようですが、瓦屋先生から「苦手な食べ物も一口は頑張って食べてください。だんだんと食べられるようになりますよ。」というお話を聞いて安心し、やる気が湧いてきたようでした。給食当日、子どもたちは張り切って食べ始めましたが、初めての給食に苦戦していました。降園前の集まりのときに、「給食で苦手なものがあった人？」と聞くと、ほとんどの子どもが手を挙げましたが、「一口食べたよ。」「瓦屋先生言ってたもんね。」「頑張ったよ。」と子どもたち。保育者が、「苦手なものがあったのに、頑張って食べたのすごいよね！どうしたら食べられたの？」と聞くと、「嫌いなものを食べた後に、牛乳を飲んだ。」「好きなものと嫌いなもの、好きなものの順番に食べた。」「苦手なものは目をつぶって食べた。」と、自分なりに工夫して食べているのだと分かりました。次の給食のときにはAちゃんが、「嫌いなものから先に食べたら、全部食べられたよ。」と満面の笑みで教えてくれました。他の子どもたちも「前よりたくさん食べられたよ。」と嬉しそうな表情でした。自分なりに考えたり工夫したりしながら苦手なものに挑戦し、少しずつできるようになっていることが自信につながっているのでしょう。給食体験を繰り返すうちに、食器の配膳や片付けがスムーズになり、食べる量も増えてきました。

ある日、昨年度の星組さんが見せてくれたお姫様の劇を思い出したように、ドレスを着るのが好きな子どもを中心に、お姫様の劇が始まりました。劇に出てくる役を考え、衣装を選び、小道具も自分たちで作っていきます。お話の台本が完成すると、椅子を並べ、風組さんと呼びに行きました。風組さんが来ると、劇が始まるまでの間、話しかけたりじゃんけんをしたりしてもてなします。『悪者に連れて行かれたお姫様が空手や魔法の技を繰り出しながら、王子様と協力して悪者を退治する』という劇を見せると、風組の子どもたちがたくさん笑って、「楽しかった。」「もう一回見たい！」と言ってくれました。年下の友達に喜んでもらったことが嬉しくて、お客さんと呼んで劇を披露することが何日も続きました。「ご飯を食べながら劇を見れるようにしたら喜ぶかな？」「王子様とお姫様が結婚するときに、ちぎった紙をまくのはどう？」「曲も流すといいよね。プリンセスの曲を探そう。」などと、年下の友達に喜んでほしいという思いをもって、自分たちで相談しながら進めていく姿には、頼もしさを感じました。劇を披露した後は、「24人も来てくれた。」「今日も笑ってたね。」「花組さんも来てくれて嬉しかった。」と子どもたちも満足そうな表情でした。友達と共通の目的に向かってやり遂げ、年下の友達に喜んでもらったことで、達成感を味わっているようでした。

うさぎのお世話の引継ぎや農場での野菜レンジャーさんとお別れなど、一つひとつ園での行事や活動を友達と乗り越えながらステップアップしていく星組さん。卒業式は、さらに立派な姿になっていることでしょう。残りわずかな幼稚園生活も友達と一緒に思う存分楽しみ、自信をもって卒業できるように支えていきたいです。(松村佳)